

異文化間教育学会第46回大会 プログラム

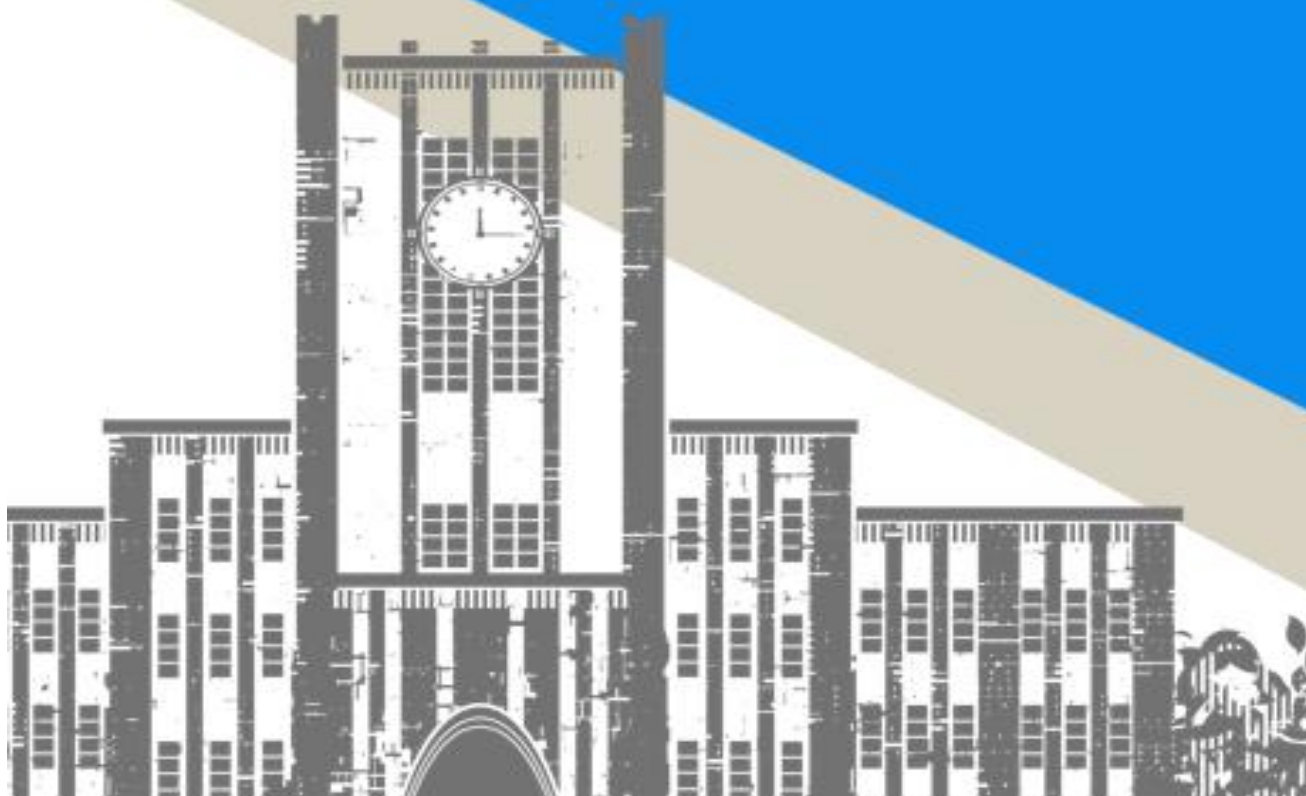
Intercultural Education Society of Japan
The 46th Annual Conference Program

2025年6月21日(土)・22日(日)

東京大学本郷キャンパス

@The University of Tokyo Hongo Campus

(プレセミナー 6月20日(金))



異文化間教育学会 第46回大会ご挨拶

異文化間教育学会第46回大会を、2025年6月21日(土)・22日(日)の両日、東京大学本郷キャンパスにて開催させていただくことになりました。東京大学は1877年に創立され、まもなく150周年を迎えます。本郷三丁目駅から徒歩10分、緑あふれるキャンパス内には、加賀藩前田家の大名屋敷の名残として知られる赤門や、明治時代からの風情を残す三四郎池、ゴシック様式の重厚な安田講堂など、数多くの歴史的建造物が点在しています。本大会の会場の一つである福武ホールは、建築家・安藤忠雄氏の設計によるものです。キャンパスには他にも近代的な建物が点在し、散策を通じて過去と現代が交錯する東京大学の豊かな歴史と文化の息吹を感じていただけるでしょう。

また、本郷キャンパスから徒歩圏内には江戸幕府直轄の昌平坂学問所であった湯島聖堂、NHKの朝ドラ「らんまん」で主人公のモデルとなった牧野富太郎博士が研究拠点とした小石川植物園、さまざまな博物館や美術館が集まる上野公園があります。この地域に住んだ多くの文豪の足跡をたどる文学散歩や、寺社めぐりもおすすめです。趣のある歴史的な街並みの散策もぜひお楽しみください。

東京大学では2003年の「東京大学憲章」にもとづき、2022年には「東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を制定し、「ダイバーシティの尊重」と「インクルージョンの推進」を二つの柱とする基本理念をあらためて明確にしました。この宣言では、さまざまな立場の人々の間でなされる対話を大切にすることが、地球規模の課題解決や知のイノベーションにつながっていくと謳われています。現在東京大学では構成員の多様な背景が尊重され、誰もが安心して学び、活動し、互いに議論を交わすことのできるキャンパスづくりを急ピッチで進めております。「世界の誰もが来なくなる大学」を掲げて、国際学術交流や留学生の送り出し・受け入れにも積極的に取り組んでおります。

国籍、文化、専門分野などの垣根を越えて互いの差異を尊重し、対話を重ねたその先に新しい知の創造や社会への還元をめざす、という東京大学の理念は、異文化間教育学会が設立当初から大切にしてきた考え方と重なるように思います。大会では皆様の新たな出会いを促し、知的交流が深まりますよう努力してまいります。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

異文化間教育学会第46回大会準備委員会

◎額賀 美紗子

○高橋 史子

○岩渕 和祥

北村 友人

大西 晶子

(◎委員長 ○副委員長)

大会参加者へのご案内

会期・会場

大会会期：2025年6月21日（土）～6月22日（日）

会場：東京大学本郷キャンパス（教育学部棟・赤門総合棟・小島ホール・福武ホール）

※プレセミナー：2025年6月20日（金）13:00-16:00

会場：教育学部棟2F第一会議室

※特定課題研究：2025年6月21日（土）9:30-12:00

会場：福武ホール地下2F

※情報交換会：2025年6月21日（土）18:00-19:30

会場：福武ホール地下2F

※シンポジウム：2025年6月22日（日）13:00-16:00

会場：福武ホール地下2F

※ポスター発表：2025年6月21日（土）13:00-16:30、22日（日）8:45-13:00

報告者の在籍時間は22日（日）8:45-9:45

会場：福武ホール地下2Fスタジオ

※個人発表・共同発表・ケース/パネル発表は、教育学部棟・赤門総合棟・小島ホールで開催します。

場所の詳細はプログラムの各発表をご覧ください。

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。

大会参加費・受付

		事前料金 (5月20日まで)	当日料金
大会参加費	正会員	6,000円	7,000円
	学生会員	3,500円	4,500円
	通信会員	6,000円	7,000円
	非会員(一般)	7,000円	8,000円
	非会員(学生)	4,500円	5,500円
	維持会員	1口1名様無料	8,000円
	名誉会員	ご招待	
情報交換会	一般 2,500円、学生会員 2,000円		

※お振込みいただいた参加費などは理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。

- 領収書は、当日に受付でお渡しいたします。
- 当日参加費をお支払いの方は、釣銭のないように現金のご準備をお願いいたします。
- 6月21日(土)午前9時、22日(日)の午前8時半より受付を行ないます。受付にて名札をお受け取りいただき、大会会期中ご着用ください。なお抄録集はPDFでの配布のみとなり、紙面での配布はありません。

会場でのWi-Fi 接続について

- 会場全域でeduroam が利用できます。eduroamのユーザーID とパスワードは事前に所属機関で取得・確認の上、ご自身のユーザーID・パスワードで認証してご利用ください。
- UTokyo-Guest というSSIDで、ソフトバンク社のサービスを用いた無線LANを、来訪者の方向けに提供しています。携帯電話またはPC経由で利用登録が必要です。詳細はこちらのページにある「利用方法」をご覧ください。

<https://www.softbank.jp/biz/services/network/wi-fi/freewifi/domestic-operators/>

念のため、発表に関わる重要な資料等は、あらかじめ発表時にお使いになるPCにダウンロードの上、会場にお越しください。

昼食・休憩場所等について

- 学内のキャンパスマップは、下記URLまたは右下のQRコードからアクセスできます。
キャンパス内の見どころやレストランの情報も掲載しています。
レストランにつきましては、予約が必要な場合や、営業日時の変更等がある場合があるので、各店舗の最新の情報はHPで入手してください。
<https://acrobat.adobe.com/id/urn:aaid:sc:AP:a048e5d2-e0f0-4019-bfa2-ad6ebbfdb970>
- 会期中、中央食堂は11:00-14:00で営業していますが、11:30-13:30は、学内者のみ利用が可能です。キャンパス周辺にも飲食店やコンビニが多くありますので、ご検討ください。
- 教育学部棟と赤門総合棟の1Fには飲み物とパン、菓子等をご購入いただける自販機が設置してあります。
- 教育学部棟1Fにカフェコーナーを設け、飲み物や菓子をご用意いたします。休憩にご利用ください。
- 福武ホールも、お昼の飲食や休憩にご利用いただけます。



学内キャンパス
ガイドマップ

情報交換会

- 6月21日(土)の発表終了後(18時開始、19時半終了予定)、福武ホール地下2階にて、軽食と飲み物をご用意して情報交換会を開催いたします。交流の機会としてご活用ください。

託児サービス

- 今大会では託児補助金制度を設け、大会期間中、大会に参加するために託児サービスを利用した会員に対して、費用の一部を補助します。詳しくは大会サイトをご覧ください。申請手続きに従って5月30日(金)までにメールでお申込みください。

クローク

- 教育学部棟3Fの356教室を、荷物を置くクロークとしてご利用いただけます。356教室の利用は22日(日)の13時までです。公開シンポジウム開催中の13~16時は、福武ホールの一角を荷物置き場としてご利用いただけます。担当者はつきません。荷物の管理は各自でお願いいたします。貴重品等は必ずお持ちください。

バリアフリー対応

- キャンパスや施設内のバリアフリー状況についてご質問がある場合は、大会準備委員会までメールでご連絡ください。

連絡先等

■ 大会HP

<https://www.intercultural.jp/iesj2025/>

■ 大会全般・大会当日に関するお問い合わせ

第46回大会準備委員会

e-mail: 46ibunka@gmail.com

■ 参加申込み・お支払いに関する連絡先

異文化間教育学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

e-mail: iesj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX: 03-5227-8632

■ 会員登録に関するお問合せ先

異文化間教育学会事務局 会員業務係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

e-mail: iesj-post@bunken.co.jp

FAX: 03-5227-8631



【大会HP】

大会日程

6月20日 (金)	6月21日(土)			6月22日(日)	
	9:00-受付(教育学部棟1F ラウンジ)			8:30-受付(教育学部棟1F ラウンジ)	
	9:30-12:00 特定課題研究 「発達の視点から異文化間で育つ子どもの経験を考える」 (福武ホール地下2F)			*8:45-9:45 ポスターセッション(在籍・説明) (福武ホール地下2F スタジオ)	
				9:30-12:05 個人発表・共同発表・ケース /パネル (教育学部棟・赤門総合棟・ 小島ホール教室)	9:45-13:00 ポスターセッション (福武ホール地下2F スタジオ)
12:30- プレセミナー受付 13:00-16:00 プレセミナー 「違いを生きる、 語る、表現する -アートベース・リ サーチによる異 文化理解と共生 の実践-」 (教育学部棟2F 第一会議室)	12:00- 13:00 昼食	12:00-13:00 ネットワーキング 交流会 「フラット交流サ ロン」 (教育学部棟 158)	12:00-13:00 各種委員会 (教育学部棟)	12:00- 13:00 昼食	12:00-13:00 各種委員会 (教育学部棟)
	13:00-14:00 総会 (福武ホール地下2F)		13:00-16:30 ポスターセッション (福武ホール 地下2F スタジオ)	13:00-16:00 公開シンポジウム 「グローバル・シティズンシップを問う -異文化間教育学は民主主義にどのように貢献できる か-」 (福武ホール地下2F)	
	14:00-17:40 個人発表・共同発表・ケース /パネル (教育学部棟・赤 門総合棟・小島ホール各教 室)				
16:30-18:30 理事会 (教育学部棟2F 第一会議室)	18:00-19:30 情報交換会 (福武ホール地下2F)				

*ポスターセッションのご発表者は、2日目8:45~9:45に在籍してご説明をお願いします。

1日目13:00~16:30、2日目9:45~13:00のポスターセッションは任意の在籍となります。

会場へのアクセス

【大会会場】 東京大学本郷キャンパス

教育学部棟・赤門総合棟・福武ホール・小島ホール

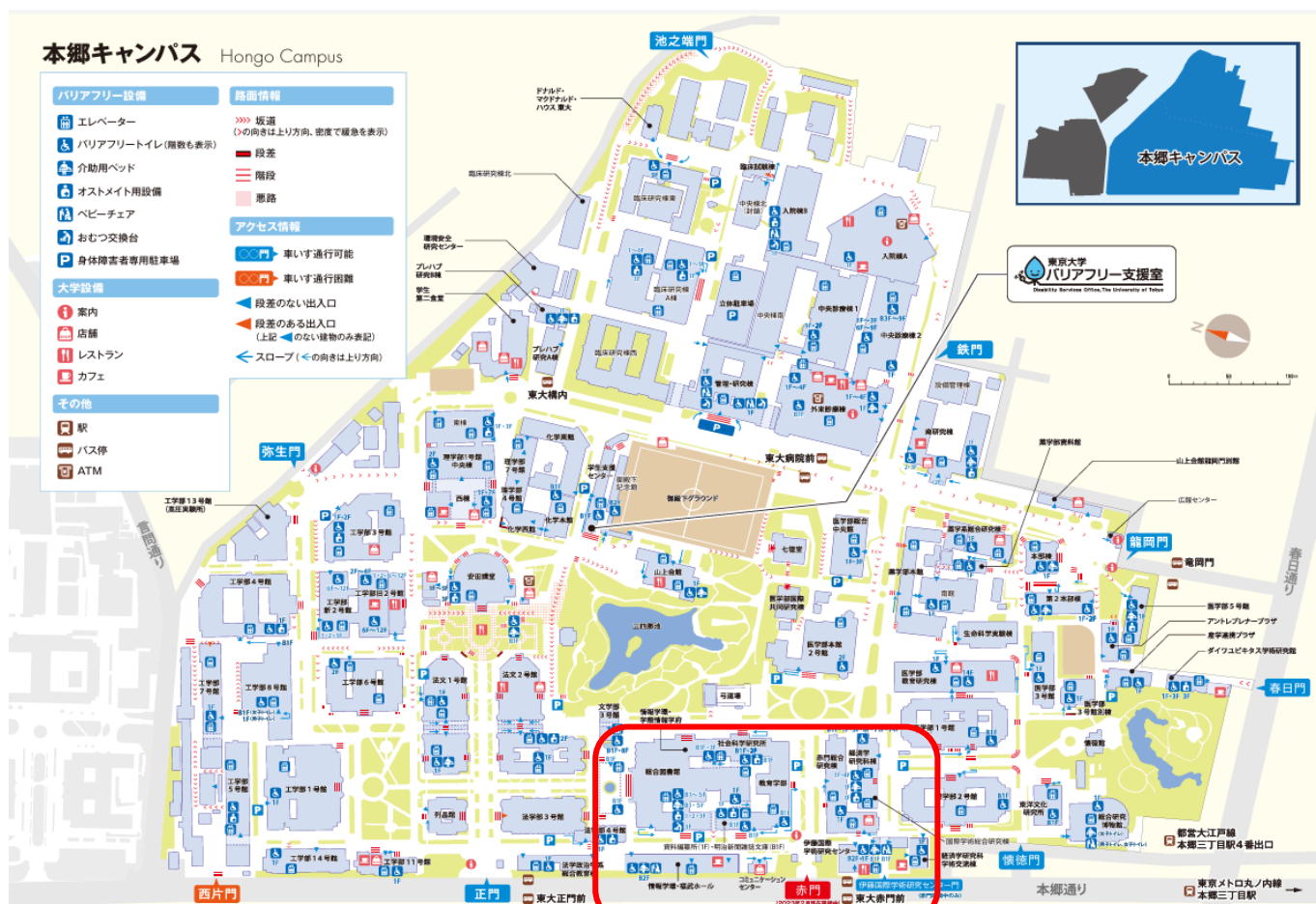
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

最寄り駅からのアクセス

- ・ 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）より徒歩 8 分
- ・ 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）より徒歩 6 分
- ・ 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩 8 分
- ・ 東大前駅（地下鉄南北線）より徒歩 1 分
- ・ 春日駅（地下鉄三田線）より徒歩 10 分

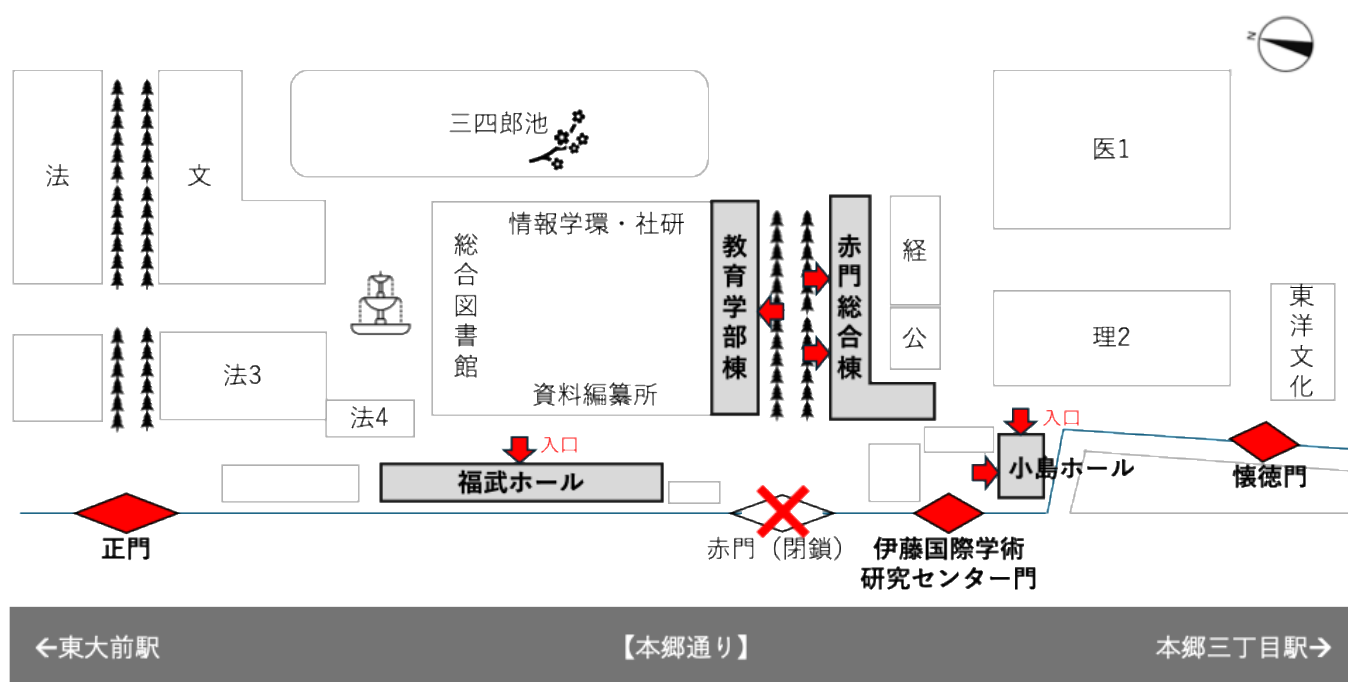
キャンパスマップ

[hongo-hongo-print-ja.pdf](#)

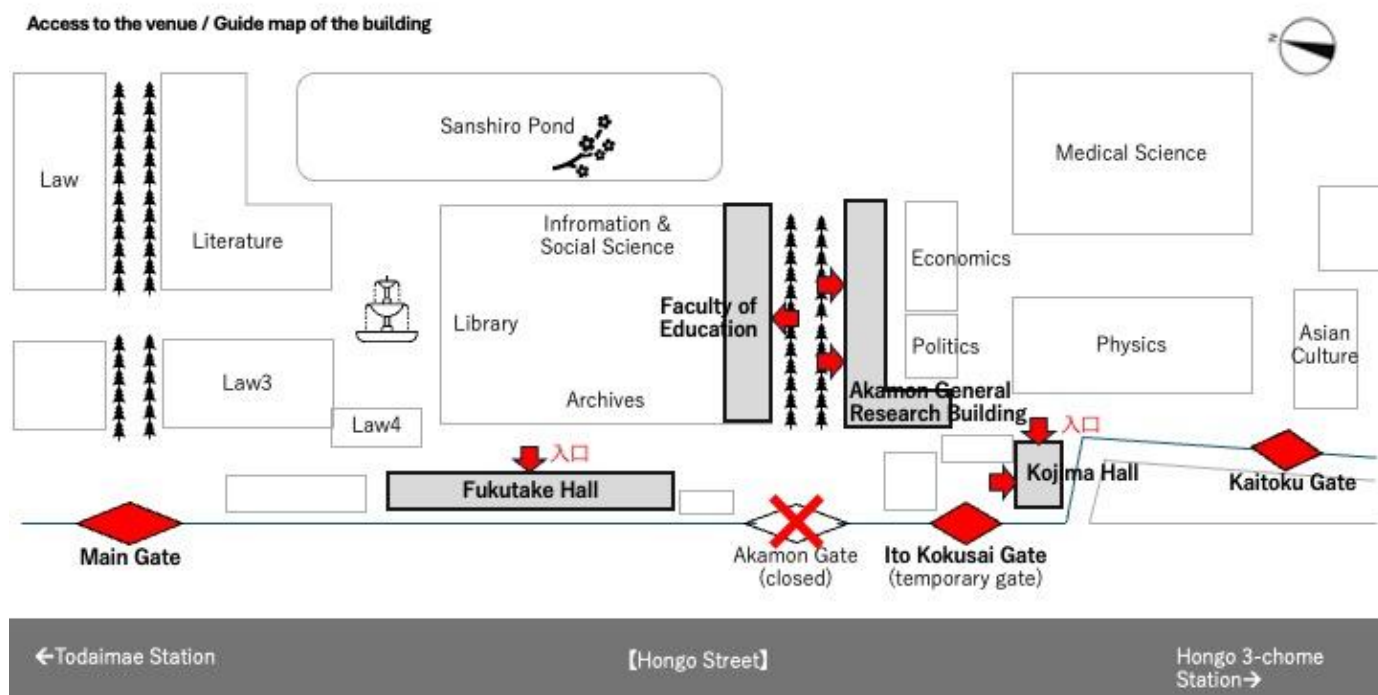


会場エリア

会場へのアクセス・建物位置関係図



*現在、赤門は工事中のため閉鎖しております。伊藤国際学術研究センター門、懐徳門、正門をご利用ください。



* The Akamon Gate is currently closed due to construction. Please use the Ito Kokusai Gate, Kaitokumon Gate, or Main Gate in stead.

会場案内

6月20日(金)

プレセミナー	13:00-16:00(受付12:30-)	教育学部棟2F第一会議室
理事会	16:30-18:30	教育学部棟2F第一会議室

6月21日(土)

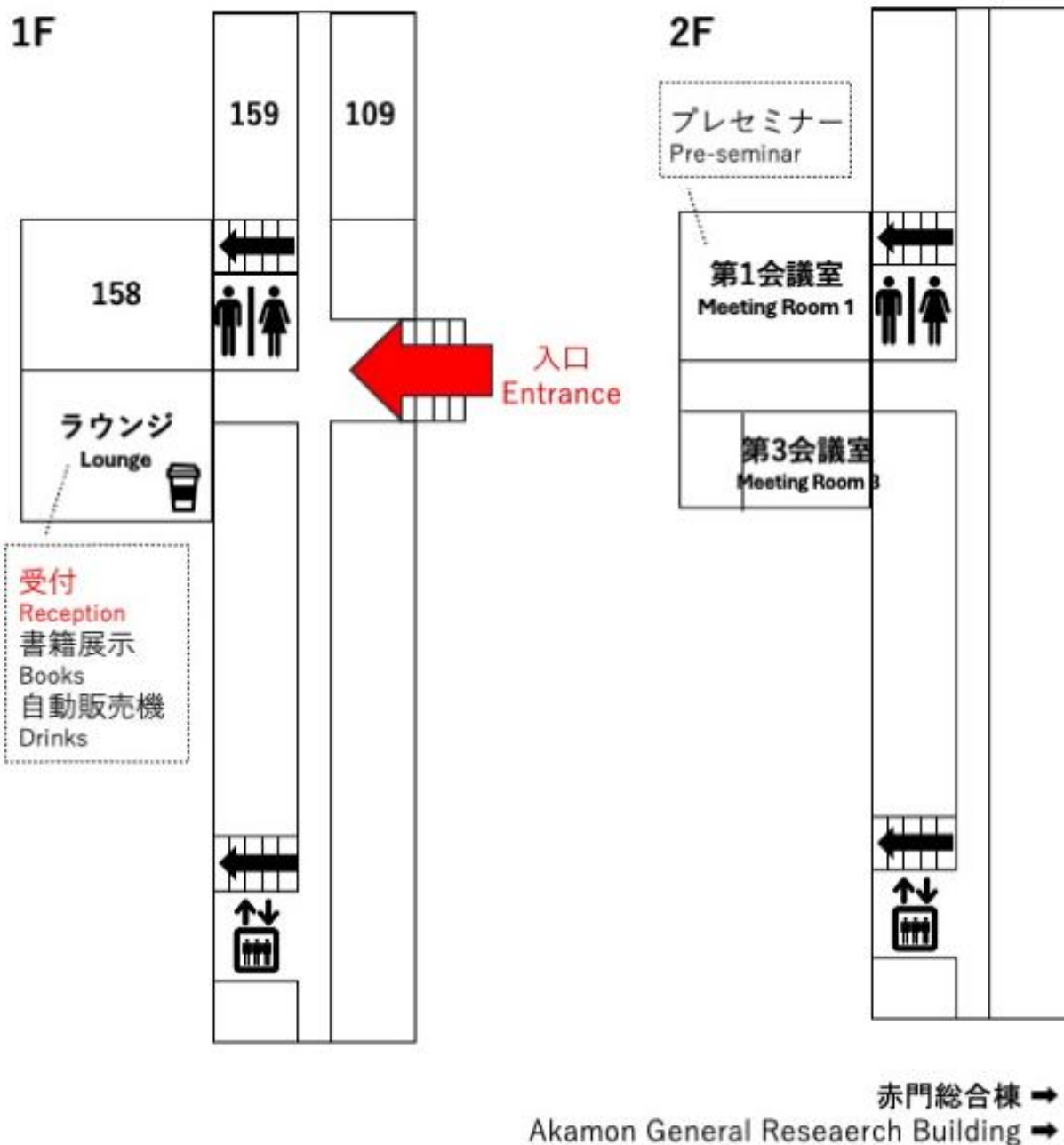
受付	09:00-17:00	教育学部棟1Fラウンジ
特定課題研究	09:30-12:00	福武ホール地下2階
ネットワーキング交流会	12:00-13:00	教育学部棟158
各種委員会		
新旧研究委員会	12:00-13:00	教育学部棟159
新旧学会誌編集委員会	12:00-13:00	教育学部棟2F第一会議室
新旧企画委員会	12:00-13:00	教育学部棟358
新旧グローバル展開委員会	12:00-13:00	教育学部棟357
将来構想委員会	12:00-13:00	教育学部棟109
総会	13:00-14:00	福武ホール地下2F
ポスターセッション	13:00-16:30	福武ホール地下2Fスタジオ
個人発表	14:00-17:30	教育学部棟1~4F・赤門総合棟2F
共同発表	14:00-16:05	小島ホール1~2F
ケース/パネル発表	16:10-17:40	小島ホール1~2F
情報交換会	18:00-19:30	福武ホール地下2F

6月22日(日)

受付	08:45-12:00	教育学部棟1Fラウンジ
ポスターセッション	08:45-13:00	福武ホール地下2Fスタジオ
※ポスター在籍時間	08:45-09:45	
個人発表	09:45-12:00	教育学部棟1~4F・赤門総合棟2F
共同発表	09:30-12:05	小島ホール1~2F
ケース/パネル発表	10:35-12:05	小島ホール1~2F
各種委員会		
新旧ネットワーキング委員会	12:00-13:00	教育学部棟109
新旧学会論文賞選考委員会	12:00-13:00	教育学部棟159
公開シンポジウム	13:00-16:00	福武ホール地下2F
大会本部	09:00-18:00	教育学部棟2F第三会議室
学会本部	09:00-18:00	教育学部棟450B
クローク	09:00-18:00 (2日目は13時まで)	教育学部棟356
書籍展示	21日 09:00-17:30 22日 09:00-13:00	教育学部棟1Fラウンジ
カフェコーナー	21日 12:00-17:00 22日 09:30-13:00	教育学部棟1Fラウンジ

講義室等案内図

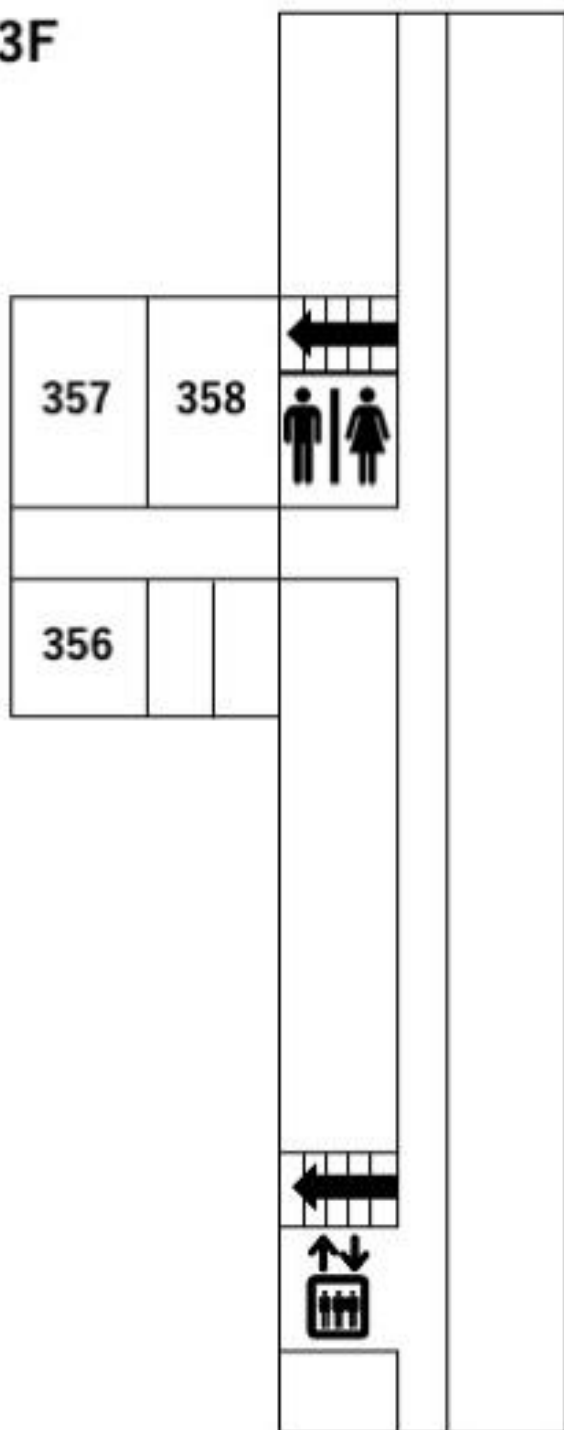
教育学部棟 Faculty of Education



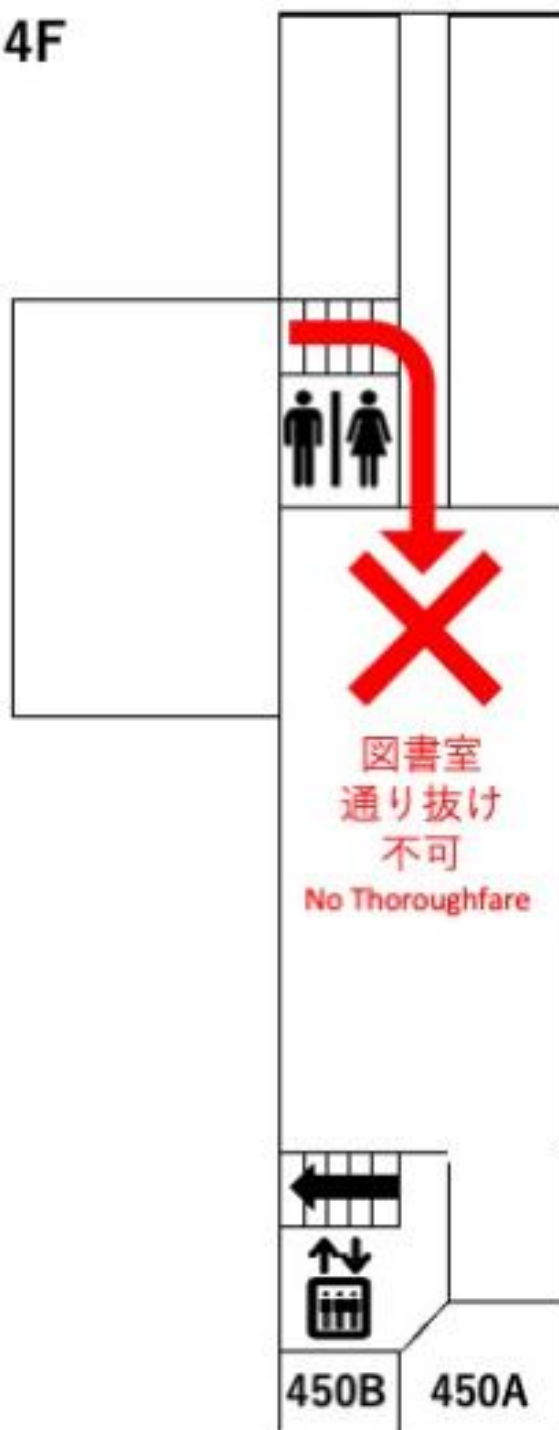
*地下1Fにバリアフリー・トイレがあります。

The barrier-free restroom is located on the basement level (B1).

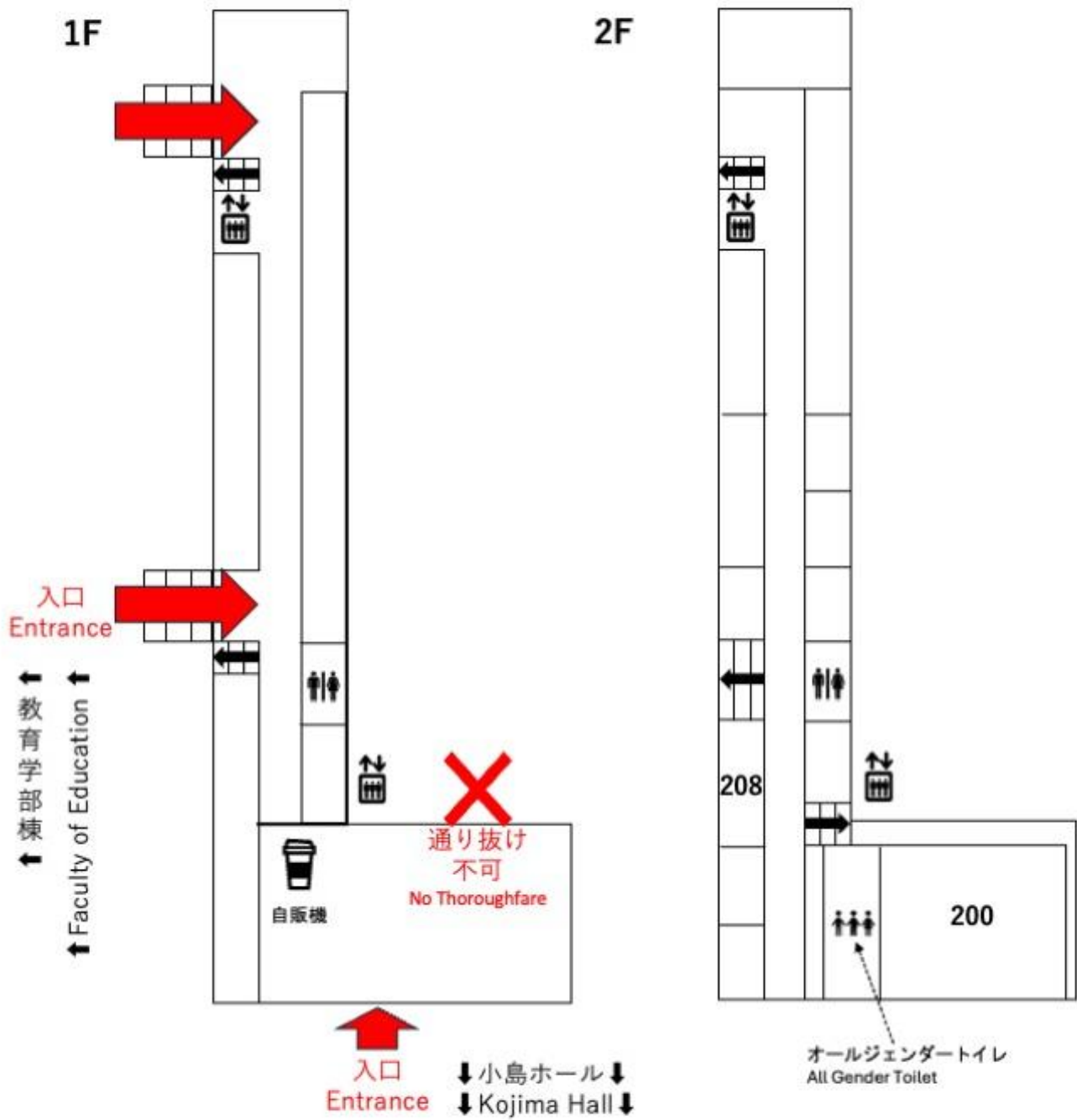
3F



4F



赤門総合棟 Akamon General Research Building



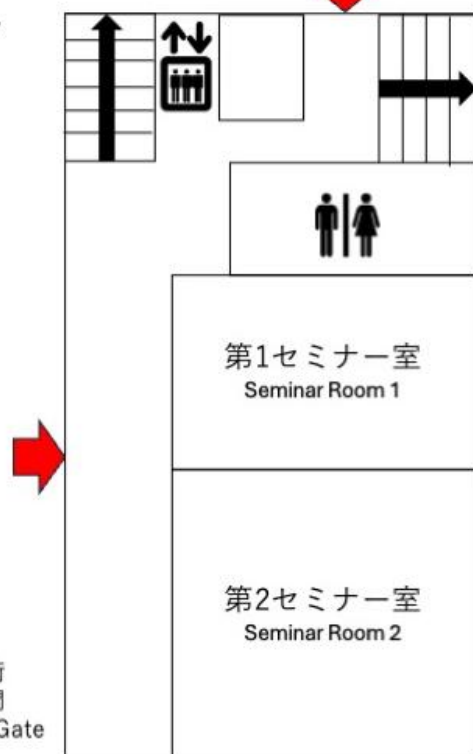
小島ホール Kojima Hall

↑赤門総合棟↑

↑Akamon General Research Building↑

入口
Entrance

1F



←伊藤国際学術
研究センター門
←Ito Kokusai Gate

2F



福武ホール Fukutake Hall

B2F

↑本郷通り↑
Hongo Street

ポスター展示
Poster Presentation

スタジオ
Studio

特定課題研究／公開シンポジウム
ポスター展示／情報交換会
Annual Research Theme／Symposium
Poster Presentation／Conference Reception

福武ホール
Fukutake Hall

地上からの外階段
Stairs from ground level

入口
Entrance

←赤門・教育学部棟
←Akamon Gate・Faculty of Education

正門→
Main Gate→

プレセミナー

違いを生きる、語る、表現する -アートベース・リサーチによる異文化理解と共生の実践-

日時：2025年6月20日（金）13:00－16:00（12:30受付）

場所：東京大学本郷キャンパス

教育学部棟2F第一会議室

【企画概要】

Arts-Based Research（以下ABR）は、アートの考え方を研究文脈で用いることにより、知識構築を行うアプローチです。研究プロセスにおける問いの生成、データ収集または生成、分析、解釈、発信、いずれの段階でも応用可能な手法として注目されています。

本プレセミナーの目的は次の3点です。

- （1）ABRの視点を取り入れた異文化間教育学への新しいアプローチを学ぶ。
- （2）本学会が出版した『異文化間教育事典』の各項目と教育実践を接続する。
- （3）教育現場に活用できる知見を得る。

【講師】岡原正幸先生（慶應義塾大学名誉教授）

1957年生まれ。2023年3月31日に慶應義塾大学を定年退職するまで文学部教授および大学院社会学研究科委員長、慶應義塾評議員などを歴任。専門は、感情社会学、障害学、アートベース・リサーチで、パフォーマンスアーティストとしても活動。代表的な著書として『感情を生きる パフォーマティブ社会学へ』慶應義塾大学出版会（2014年），『アート・ライフ・社会学 エンパワーするABR』晃洋書房（2020年），『黒板とワイン もうひとつの学び場〈三田の家〉』慶應義塾大学出版会（2010年）がある。

【コーディネータ】岸磨貴子（明治大学）・川島裕子（関西大学）

【参考図書】

パトリシア・リーヴィー（著），岸磨貴子，東村知子，久保田賢一（訳）（2025）『研究法がアートと出会うとき——アートベース・リサーチへの招待』福村出版

パトリシア・リーヴィー（著），岸磨貴子，川島裕子，荒川歩，三代 純平（監訳）（2024）『アートベース・リサーチ・ハンドブック』福村出版

【企画・問い合わせ先】

異文化間教育学会事務局 iesj@meiji.ac.jp

特定課題研究

発達の視点から異文化間で育つ子どもの経験を考える

【日時】2025年6月21日（土）9:30－12:00

【場所】東京大学本郷キャンパス福武ホール地下2階

2025年度の特定課題研究テーマは「発達の視点から異文化間で育つ子どもの経験を考える」である。本年度も発表者を公募し、多くの会員から応募をいただいた。本テーマへの貢献や研究方法・内容のバランスなどを念頭に審査を行い、登壇者を選出した。本大会にて会員の皆様と活発な議論をし、今後の更なる展開を共に検討する契機としたい。

【趣旨】

2024年度の特定課題研究では、「乳幼児期に異文化間で育つとはどういうことか—複層的な視点でとらえる—」をテーマとして研究を進めた。今年度は引き続き、「発達の視点」を軸にしながら、異文化間で育つ子どもたちや子どもたちを支える家族や地域、環境を取り上げていく。入園、卒園と小学校への入学、中学・高校等への進学といった節目を、異文化間で育つ子どもたちはどのように経験しているのだろうか。時間軸を持つことは、子どものこれまでの経験（母国の学校、就学前施設、中学校進学前の小学校等）を踏まえて現在のその子/その人の把握・理解につながる。異文化間で育った経験を持つ人が、大人となって教育に関わったり、自ら子育てをしたりするケース等も考えられる。現在と過去の異文化間で育つ・育った経験と移動を振り返ることで、異なる文化の場がどのように交差し、成育に影響したのかなど、俯瞰的に当事者たちを取り巻く環境を考えていく必要があるのではないだろうか。

また、子どもたちが育つ場、社会とかがかわる場は、園や学校だけでなく病院、保健センター、幼児教育施設、さらに、保護者の選択によって図書館、児童館、子ども食堂、子育てひろば、教会、寺院、補習校（継承語学校・エスニックスクール）、塾（異なる教育目標に合わせた勉強・受験対策・アフタースクール）、保護者の通う日本語教室等、多様に存在する。こうした場と家庭の間を日常的に移動している子どもたちの経験を、それぞれの場にいる人たちを通して捉えることができる可能性がある。学校以外の場所だからこそ、学校教育の枠組みを越えて、長期間に子どもの育ちを捉えることが可能な場合もあるだろう。また、マイノリティとして育つ子どもたちだけでなく、マジョリティ側の子どもたちのための異文化間教育について考えていく必要もあるだろう。

本大会では、3つの発表を起点として議論を深めていきたい。

【趣旨説明】 佐藤 千瀬（聖学院大学）
【登壇者】 本間 祥子（千葉大学）
重松 香奈（東京外国語大学）
小松 翠（東京科学大学）
【指定討論者】 岡村 郁子（東京都立大学）
山田 亜紀（玉川大学）

【企画・運営：研究委員会】
佐藤 千瀬（聖学院大学）
内田 千春（東洋大学）
小松 翠（東京科学大学）
山田 亜紀（玉川大学）
由井 一成（早稲田大学）

公開シンポジウム

グローバル・シティズンシップを問う —異文化間教育学は民主主義にどのように貢献できるか—

【日時】2025年6月22日（日）13:00～16:00

【場所】東京大学本郷キャンパス福武ホール地下2階

今日の世界は、環境破壊、貧困問題、人権侵害、難民の増加、経済的不平等など、さまざまな地球規模の課題に直面している。予測困難なVUCA時代において、教育には、平和・人権・民主主義・持続可能な発展を支え、これらの課題解決に向けて主体的に行動するグローバル市民を育成する役割が強く求められている。民主的で包摂的な社会を支える市民の育成を目指す教育的取り組みは、これまでも各国で展開されてきた。しかし、それらの多くは、必ずしもグローバルな視点を明確に打ち出していたわけではない。こうした状況をふまえ、ユネスコは2012年にGlobal Citizenship Education（GCED）を提唱した。GCEDは、グローバルな諸現象や国境を越えた相互依存関係への理解を深めるとともに、異質な他者への寛容や共感を育み、公正で持続可能な社会の実現に向けて、ローカル・ナショナル・グローバルのそれぞれのレベルで行動できる力を養うことを目的としている。

一方、グローバル化は新自由主義とナショナリズムの台頭を加速させ、各国において社会的弱者の排除や抑圧が顕著になりつつある。民主主義の先導役を自任してきたアメリカでは、ポピュリズムの拡大とともに自国第一主義を正当化する風潮が強まり、社会の分断や対立を煽る権威主義的な政治体制が、民主主義の根幹を急速に蝕みつつある。こうした政治的・社会的状況が世界的に進行するなか、教育は単なる知識の伝達にとどまらず、グローバルな連帯や社会正義を実現するための重要な手段として、その意義があらためて問われている。

本シンポジウムでは、スタンフォード大学国際異文化教育研究プログラム（SPICE）の代表を務める Dr. Gary Mukai を基調講演者として迎える。Mukai 氏がこれまで関わってきた豊富な実践事例をもとに、グローバル・シティズンシップの概念を多面的に探究するとともに、異文化間教育がいかにして、グローバルな視野と批判的思考を備えた市民の育成に貢献しうるのかを考察する機会としたい。あわせて、アメリカ、ドイツ、デンマークにおける民主主義的な教育の理論と実践を紹介し、日本との国際比較の視点も交えながら、グローバル・シティズンシップ教育の可能性と課題について議論を深める予定である。異文化間教育に携わる私たち自身が、いかにしてより包摂的で持続可能な民主主義の構築に寄与できるのかを考える、意義深い対話の場となることを期待したい。

※非会員の皆様のご参加も歓迎いたします（参加費無料）。

◆プログラム◆

第1部 基調講演 (13時～) ※英語から日本語へのAI同時翻訳付

Dr.Gary Mukai (スタンフォード大学)：“What Does it Mean to be a Global Citizen?”

第2部 パネリストからの話題提供 (14時～)

青木香代子 (茨城大学) : アメリカにおける社会正義のための教育の視点から

中山あおい (大阪教育大学) : ドイツにおけるグローバル・シティズンシップの可能性

原田亜紀子 (東海大学) : デンマークの対話型民主主義教育の視点から

第3部 パネルディスカッションと全体質疑・討論 (15時～)

指定討論者 渋谷恵 (明治学院大学)

登壇者・フロアの参加者

総合司会：額賀美紗子 (東京大学)

ネットワーキング交流会

異文化間教育学会ネットワーキング交流会「ふらっと交流サロン」

2025年度異文化間教育学会でも、ネットワーキング委員会の企画として、学会参加者の皆様のネットワーキングのための交流会「ふらっと交流サロン」を開催します。

気軽に「ふらっと」立ち寄れる、参加者同士の「フラット」な交流のための企画です！

集まった参加者の皆さん同士で、気軽に話し合い、横のつながりを広げてみませんか。情報共有をしたり、研究・実践につながるネットワーク構築の場になればと考えています。参加にあたってのご準備は不要で、好きなタイミングでご参加いただけます。せっかくの機会なので他の大会参加者と気軽に交流してみたいという方、学会大会への参加経験が浅く知り合いが少ない方、この時間帯に予定が空いていて特にすることがない方など、大歓迎です。当日はお互いの自己紹介を中心に、異文化間教育に関する研究や教育実践、やりがいやお悩みなど、気軽に自由に話せる時間を準備します。

また、同日19:30から、東京大学本郷キャンパス周辺にて「ふらっと夜の懇親会」を開催します。お昼の「ふらっと交流サロン」に参加していただいた方も、参加できなかった方も、「フラット」な交流のための夜の懇親会にぜひご参加ください。初めての方でも気軽にお話していただけるような工夫をする予定です。（なお、飲食代が1人あたり5000円程度かかる見込みです）

人数把握のため、交流会参加希望者は以下のリンクからそれぞれのイベントの参加登録をお願いします。

（定員に空きがある場合は飛び入りでの参加も可能ですが、原則として、事前登録をお願いします。なお、夜の懇親会は事前登録が必要です。）

1. ふらっと交流サロン

申し込みフォーム

<https://forms.gle/nHcoinTo6ET7wCEm6>

開催日時：6月21日（土）12:00-13:00

場所：東京大学本郷キャンパス 教育学部棟158

プログラム（案）：（参加者数によって内容が変更になる可能性があります）

12:00 - 12:05 開会挨拶・趣旨説明

12:05 - 12:25 小グループで交流①

12:25 - 12:30 名刺交換タイム・席移動

12:30 - 12:50 小グループで交流②

12:50 - 12:55 名刺交換タイム

12:55 - 13:00 アンケート記入・閉会挨拶

2. ふらっと夜の懇親会

申し込みフォーム

<https://forms.gle/r9lV5A25Dn8orhTR6>

開催日時:6月21日(土)19:30-21:30(予定)

★ 大会の情報交換会に参加される方は、懇親会の開始時間に合わせて、会場への移動をお願いいたします。

場所:東京大学周辺(具体的な場所は追ってご案内します)

懇親会参加費:5000円前後

定員:20名程度(定員に達し次第締め切ります)

締切:5月23日(金)

〈企画・運営(五十音順)〉

異文化間教育学会 ネットワーキング委員会

岩渕和祥(名古屋大学)

新見有紀子(東北大学)

高木ひとみ(名古屋大学)

平井達也(明治大学)

藪田直子(大阪教育大学)

発表について

研究発表は以下の種別で行われます。

発表者、題目、時間帯、会場などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

A.個人発表 B.共同発表 C.ケース／パネル発表 D.ポスターセッション

1. 発表時間

A. 個人発表 30 分（発表 20 分、質疑応答 10 分）

B. 共同発表 60 分（発表 40 分、質疑応答 20 分）

C. ケース／パネル発表 90 分（発表 50 分、質疑応答 40 分）

※ 会場での運営は各グループでお願いいたします。質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

D. ポスターセッション 6 月 21 日（土）13:00-16:30、6 月 22 日（日）8:45-13:00

※ ポスター掲示作業は6 月 21 日（土）12:00 から福武ホール地下2階で行えます。

ポスターは21 日 13:00～22 日 13:00 の間、掲示してください。

その後各自で14:00までにポスターを撤去してください。撤去されないポスターは事務局で処分します。

※ 22 日（日）8:45-9:45 の時間帯は必ず在席してください。その他の時間の在席は任意です。

※ ポスターのサイズは縦180センチ、横90センチの範囲でご準備下さい。

2. 配布資料

- デジタルデータでの資料配布をご希望の発表者の方向けに、大会準備委員会で専用クラウドフォルダを設ける予定です。詳細はご発表者及び大会参加者の皆様に、後日メールでご案内いたします。
- 紙で資料配布を希望される場合は、1 発表につき 30 部程度ご用意ください。なお、大会準備委員会では印刷をお受けすることはできません。また会場では印刷機をご利用いただけません。ご了承ください。
- 優秀発表賞にエントリーされた方は、「発表時の配布資料」も評価・審査対象となりますのでご用意ください。

3. 発表に使用する機器等について

- 発表に用いるPCは発表者が各自でお持ち下さい。発表会場にプロジェクターを用意しております。プロジェクター接続ケーブルの端子はVGA (RGV) またはHDMIとなります。アダプターが必要な方は各自でご用意ください。
- ご発表のセッションが始まる前に、各自で動作確認等を行って下さい。
- 機材の設定および操作は発表者ご自身で行ってください。
- Wi-Fi接続については、本プログラムp.3「会場でのWi-Fi 接続について」をご覧ください。
- 英語セッションにおける海外在住の共同発表者のみ、オンライン発表が認められています。オンライン発表についても各自のPCを用い、Web会議ツールも各自で設定して下さい。

4. 発表者欠席の場合

やむを得ない事情により発表者が欠席する場合には、できるだけ前日までに大会準備委員会宛にメールでご連絡ください。 ※第 46 回大会準備委員会連絡先 46ibunka@gmail.com

発表取りやめがあっても、プログラムの繰り上げはいたしません。

「優秀発表賞」について

異文化間教育学会事務局

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を図ることを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象とし、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

下に示す規定にあるとおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。発表申し込み時に、優秀発表の審査の希望の有無を、大会 HP 上の「個人発表申し込み」の欄で選択してください。個人発表申し込み締切り後、必要に応じて、事務局より確認のためのメールをお送りすることがございます。

受賞資格を有する皆さん、審査への積極的なお申し出をお待ちしております。

なお、優秀発表賞の選考方法（選考の手続き、審査対象・審査基準）については、下記の規定と併せて学会HPをご覧ください。

異文化間教育学会優秀発表賞規定

名称：異文化間教育学会「優秀発表賞」と称する。

趣旨：若手の研究者を表彰し、研究発表の奨励、研究内容の向上を図ることを目的とする。表彰人数：表彰人数は若干名とする。

対象者：大会における個人研究の個人発表者で、受賞資格を有する者※とする。

選考方法：優秀発表賞審査委員会を設置し、審査委員会による選考後、理事会の承認を得て決定する。

審査委員会：優秀発表賞審査委員会は、研究委員会委員長の指名により理事（研究委員会委員長を含む）で構成する。任期は1年とする。審査委員会は、選考方法に従って優秀発表賞受賞者の選考を行い、その結果を理事会に諮る。

結果の公表・表彰：審査結果は学会ホームページを通じて公表する。また、大会で表彰し、副賞を与える。

本規定は、会則第9条に基づき理事会が定めるものとする。

本規定は、2013年12月7日より発効する。

受賞資格

① 発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である。修士課程修了後10年以内である（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）。最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後12年以内である。

修了後の期間は、修了・卒業月の末日を修了日として起算する。

例えば、大学院修士課程修了者で、3月修了の場合は、3月31日を修了日として、10年後の3月31日までが受賞資格を有する期間とする。

② 優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が上記条件のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要がある。

個人発表 6月21日（土） マイノリティ①

司会：山ノ内裕子（関西大学文学部）

会場：教育学部棟 109

- 14:00—14:30 移民社会ドイツにおけるムスリムの表象と性の多様性をめぐる課題
伊藤亜希子（福岡大学）
- 14:35—15:05 「国際越境する学生」のアクティビズムと市民性
：留学生／移民学生の分断的レトリックに抗する交差的分析の試み
澤田彬良（ミネソタ大学（University of Minnesota））
- 15:10—15:40 「多元文化社会」台湾における「食マイノリティ」対応
—「多文化共生社会」日本との比較を通して—
山ノ内裕子（関西大学文学部）

個人発表 6月21日（土） 多文化教育①

司会：高松美能（東北大学）

会場：教育学部棟 109

- 15:50—16:20 日本における中華系移民教師の教育実践とエスニック・アイデンティティの交渉
山田江理子（東京大学大学院教育学研究科）
- 16:25—16:55 多文化教育の視点から見た多様性尊重と学校文化の葛藤
—外国人散在地域の公立中学校を事例に—
新田康平（大阪大学大学院人間科学研究科）
- 17:00—17:30 大学の国際共修授業における人権教育の実践
—指導言語の違いによる学生の学びの相違と共通性—
高松美能（東北大学）

個人発表 6月21日（土） 異文化理解①

司会：下道郁子（東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽文化教育）

会場：教育学部棟 159

- 14:00—14:30 中国系移民二世世代が語る「学校から仕事への移行」
—インタビュー調査の結果から—
劉麗鳳（日本大学）
- 14:35—15:05 異文化間関係形成におけるソーシャル・スキルの効果に関する研究
—在日中国人への質問紙調査を通して—
張氷穎（東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻）
- 15:10—15:40 唱歌教育のコロニゼーション的視点からの再検討
—西洋音楽の覇権と異文化間教育の視点から—
下道郁子（東京音楽大学音楽学部音楽学科音楽文化教育）

個人発表 6月21日（土） 異文化理解②

司会：大和洋子（星槎大学 共生科学部）

会場：教育学部棟 159

- 15:50—16:20 短期留学を通じた自己変容学習の規定要因—留学中の経験と行動様式の質的分析—
中村絵里（千葉大学 未来医療教育研究機構）
- 16:25—16:55 日本語授業における学習者の「死」の捉え方
—自殺と死因に対する外国人留学生の認識に焦点化して—
萩原秀樹（インターカルト日本語学校）
- 17:00—17:30 外国人児童生徒にとっての生活言語・教授言語・母語
：シンガポールと香港の「母語」教育政策からみた「日本語」教育への示唆
大和洋子（星槎大学 共生科学部）

個人発表 6月21日（土） 外国人児童生徒①

司会：竹内愛（共愛学園前橋国際大学）

会場：教育学部棟2階・第一会議室

- 14:00—14:30 学習支援における援助の継続—外国にルーツを持つ子どもの教室を対象に—
柳川瀬真衣（関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科）
- 14:35—15:05 「幼稚園における保護者に向けた情報伝達の現在地」
—コロナ禍後の変容から見てきた課題点—
西尾広美（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所）
- 15:10—15:40 韓国の多文化教育政策の展開 - 多文化学校を中心に—
竹内愛（共愛学園前橋国際大学）

個人発表 6月21日（土） 外国人児童生徒②

司会：吉岡（ヨシイ）ラファエラ（東京都立大学国際センター）

会場：教育学部棟2階・第一会議室

- 15:50—16:20 アイデンティティの無標化
—自身のアイデンティティをめぐる言説からの脱却を目指して—
松崎かおり（大阪大学大学院人文学研究科 日本学専攻）
- 16:25—16:55 教育支援者はどのように移民の「居場所」を語るのか
瀬戸麗（日本学術振興会特別研究員）
- 17:00—17:30 トランスナショナルな移民の若者の進学支援
—在日ブラジル人を対象とした大学進学支援プログラムを事例に—
吉岡（ヨシイ）ラファエラ（東京都立大学国際センター）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 6月21日（土） 日本語教育①

司会：西谷まり（一橋大学国際教育交流センター）

会場：教育学部棟 357

- 14:00—14:30 第三言語としての日本語学習の可能性
—日本語学習が人生にもたらしうるものを探る—
鈴木小百合（一橋大学）
- 14:35—15:05 外国人研究者の日本語学習—日本語能力不問で採用された研究者を対象に—
猿田静木（広島大学大学院）
- 15:10—15:40 日本語教育専門家が教える地域日本語教室の挑戦
—PAC 分析で得られた創立者の語りを中心に—
西谷まり（一橋大学国際教育交流センター）

個人発表 6月21日（土） 日本語教育②

司会：塩入すみ（熊本学園大学）

会場：教育学部棟 357

- 15:50—16:20 海外の日本語交流会に関する一考察—ハンガリーの事例をもとに
片山恵（Japan Foundation Budapest）
- 16:25—16:55 協働学習における理想のリーダー像は活動形態によって異なるのか
藤美帆（広島市立大学）
- 17:00—17:30 地域と連携した日本語教育実習の課題と可能性
塩入すみ（熊本学園大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 6月21日(土) 異文化理解③

司会：谷口紀仁（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

会場：教育学部棟 358

- 14:00—14:30 高校生の異文化感受性を高める交流活動の提案
—留学生の「文化大使」の意識に着目して—
岩澤直美（東京大学大学院 学際情報学府）
- 14:35—15:05 英語プログラムにおける中国人留学生の日本語学習
—異文化適応とアイデンティティ構築に着目して—
党思妍（長安大学）
- 15:10—15:40 留学中の社会的交流が帰国後の国際学生との関係に与える影響
：日本人学生の集団認識の変化
谷口紀仁（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

個人発表 6月21日(土) 海外帰国児童生徒

司会：芝野淳一（中京大学）

会場：教育学部棟 358

- 15:50—16:20 日本人学校における現地採用教員の役割認識—長期勤務者の語りの分析から—
高橋奈々（東京学芸大学大学院教育学研究科）
- 16:25—16:55 何が帰国教員の派遣経験の活用を規定するのか？
芝野淳一（中京大学）

個人発表 6月21日(土) 英語セッション①

司会：芝野淳一（中京大学）

会場：教育学部棟 358

- 17:00—17:30 Unaccompanied Minors in Japanese High Schools: A Case Study of Chinese Adolescent Students
寇語倩（東京大学大学院教育学研究科）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 6月21日(土) 留学①

司会：山本晃彦（流通科学大学）

会場：教育学部棟 450A

14:00—14:30 日本における外国人交換留学生のキャリア形成に関する研究

李奎台（宇都宮大学）

14:35—15:05 留学生のためのキャリア教育に向けた予備調査～現代的課題

阿部裕子（東京福祉大学）

15:10—15:40 大学生活は留学生の自律的動機づけにどのような変容をもたらすか
—ネパール人留学生へのインタビューから—

山本晃彦（流通科学大学）

個人発表 6月21日(土) 留学②

司会：藤本純子（南山大学国際センター）

会場：教育学部棟 450A

15:50—16:20 短期留学における多文化共修グループプロジェクトの教育効果
—異文化間能力の変容に焦点を当てて—

異洋子（名古屋大学）

16:25—16:55 異文化間学習が中国人元留学生の大学教員に与える影響

王宗成（鹿児島大学大学院人文社会科学研究科）

17:00—17:30 国際寮における短期留学生の社会ネットワーク形成
—複言語を实践する学びのプロセスに着目して—

藤本純子（南山大学国際センター）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 6月21日(土) 外国語教育

司会：山川健一（安田女子大学）

会場：赤門総合棟 208

14:00—14:30 国際共修授業における第二言語での発話を促す要因

黒崎典子（明治大学）

14:35—15:05 英語教育における食育の在り方—食の多様性に着目して—

早瀬沙織（宮崎大学）

15:10—15:40 留学前後における異文化間能力と英語力の変化：BEVI と CQS を用いて

山川健一（安田女子大学）

個人発表 6月21日(土) 国際理解

司会：小嶋緑（東北大学）

会場：赤門総合棟 208

15:50—16:20 ラベリングされた「日本式教育」に違和感を抱く日本人教員の語り
—政策理念・学校経営・教育実践の狭間で揺れ動く日本人教員のポジショナリティに着目して

宮崎優希（九州大学教育学部教育社会学研究室）

16:25—16:55 言語コード遞減の表現活動を活かした大陸間教育プロジェクトの展開
～水・気候変動問題について世界の地域と地球をつなぐ学び合い～

宇土泰寛（椙山女学園大学）

17:00—17:30 国際共修の社会的性格とその活用

小嶋緑（東北大学）

個人発表 6月22日(日) 異文化適応

司会：浅井亜紀子（桜美林大学リベラルアーツ学群）

会場：教育学部棟 109

- 9:45—10:15 多文化的背景を持つ子どもの養護と自立支援—児童期及び青年前期を中心に—
高橋泉（大谷大学真宗総合研究所東京分室）
- 10:20—10:50 “日本人”と“外国人”の間でキャリアを構築する
—社会経済的地位を達成した移民第2世代の学歴・職歴形成と文化資本の活用—
ゾロタリョワ クセニヤ（東京大学大学院教育学研究科）
- 10:55—11:25 留学生記者の生き方：境界線を越えるための多文化共生の実践
村田晶子（法政大学）
- 11:30—12:00 インドネシア人移住者の台湾での仕事と生活における志向と能力の変化
浅井亜紀子（桜美林大学リベラルアーツ学群）

個人発表 6月22日(日) マイノリティ②

司会：藪田直子（大阪教育大学）

会場：教育学部棟 158

- 9:45—10:15 移動する若者の進路選択とアイデンティティ変容
—ペルーにルーツを持つ若者への質的調査より—
PINILLOS MATSUDADEREK KENJI（明治大学国際日本学部）
- 10:20—10:50 日本語教育現場における言説の問い直し
—沈黙する中国系移民第二世代日本語教師と同世代の若者の語りから—
白皓（明治学院大学教養教育センター）
- 10:55—11:25 移民児童生徒への「言語支援」再考：母語支援員のインタビュー分析を通じて
山脇佳（中京大学大学院）
- 11:30—12:00 「反差別」の教育実践の困難と重要性—民族学級に着目して—
藪田直子（大阪教育大学）

個人発表 6月22日（日） コミュニケーション

司会：小坂貴志（東京国際大学言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科）

会場：教育学部棟 159

9:45—10:15 移動する外国人住民と日本語コミュニケーションの課題
—神奈川県 N 団地住民の事例から

片山奈緒美（東洋大学）

10:20—10:50 大学生にとってのマイクロアグレッションを考える
—過去の体験と対応策に着目して（2）—

中川典子（流通科学大学）

10:55—11:25 こども国際 PBL におけるコミュニケーション・ストラテジーと言語活動分析
—予備調査 2024：コミュニケーション阻害要因の解明を目指して—

堀尾佳以（宇都宮大学）

11:30—12:00 対話関係の（非）対称性—対話論の比較から見えてくるもの

小坂貴志（東京国際大学言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科）

個人発表 6月22日（日） 外国人児童生徒③

司会：幅崎麻紀子（アール医療専門職大学）

会場：教育学部棟 2 階・第一会議室

9:45—10:15 日本における国際結婚家庭のトランスナショナルな教育戦略
—国際学校のサタデースクールの役割に着目して—

ハフマン美亜（京都産業大学・職員（元筑波大学大学院・院生））

10:20—10:50 来日によって得られたものと失われたもの
—「呼び寄せ」られた在日ネパール人 1.5 世の語りから—

大國七歩（東京大学大学院教育学研究科）

10:55—11:25 ムスリム移民男子高校生の学校経験と進路意識
—特別枠校におけるフィールドワークを通して—

島沙也加（筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群（博士前期課程）教育学学位プログラム国際教育）

11:30—12:00 学齢期（日本の義務教育年限）後に来日した移民の子どもたちの進学の問題

幅崎麻紀子（アール医療専門職大学）

個人発表 6月22日(日) 英語セッション②

司会: Michael Kuziw (仁愛大学)

会場: 教育学部棟 357

- 9:45—10:15 Negotiating Language and Identity
: International Students' Discussions in a University Multicultural Communication Class
Hana TOMIOKA (Keio University Faculty of Policy Management (part time lecturer))
- 10:20—10:50 Precarity and Resilience in Navigating Dreams Abroad
: Educational Migration Experiences of Nepali Students in Japan
Sanjaya Karki (Chiba University)
- 10:55—11:25 The Impacts of Studying Abroad in Japan
-The Cases of Female Students from East Africa-
Seiko Kondo (Osaka Jogakuin University Graduate School (D3))
- 11:30—12:00 The potential of international exchange for children's wellbeing
Michael Kuziw (Jin-ai University)

個人発表 6月22日(日) 英語セッション③

司会: 渡部由紀 (東北大学)

会場: 教育学部棟 358

- 9:45—10:15 The Group Characteristics of Globalization Experiences and Their Relationship with Global Competence among Chinese Top University Undergraduate Students
Yilin WU (Institute of Education, Nanjing University & Faculty of Education, The University of Tokyo)
- 10:20—10:50 Publishing in English or Not? The Agency of Japanese Doctoral Students in the Humanities and Social Sciences
Wenjuan Cheng (Hiroshima University)
- 10:55—11:25 Learning Another Culture, Learning Own Culture - What ESL Students Realize in Intercultural Communication -
Jun OMI (Tokyo Keizai University)
- 11:30—12:00 Expectations, Utility, and Fairness: Challenges for Course Creation in a Japanese University
Myles Grogan (大阪大谷大学)

個人発表 6月22日（日） 多文化教育②

司会：中川康弘（中央大学）

会場：教育学部棟 450A

- 9:45—10:15 単一の権力構造に着目した多文化教育と複数の権力構造を取り上げた多文化教育の授業実践の比較分析
—「マジョリティ特権」「多様性の尊重」「社会参画」を視点として—
徳永生（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
- 10:20—10:50 共生社会の構築に向けたアドボカシーの重要性に関する一考察
～地域における日本語教室や生涯学習講座の現場の事例を踏まえながら
野山広（国立国語研究所）
- 10:55—11:25 多文化共生保育実践における保育者支援の在り方
～社会福祉法人どろんこ会の実践からの示唆～
朴咲輝（東京大学公共政策学教育部）
- 11:30—12:00 夜間学級の現場から見えるもの—ある中学校教諭への聞き取り調査から—
中川康弘（中央大学）

個人発表 6月22日（日） マイノリティ・留学生

司会：服部美貴（台湾大学）

会場：赤門総合棟 200

- 9:45—10:15 在留外国人に向けた地方自治体の情報発信の方法やあり方の再検討
—AIによる自動翻訳技術を活用した市のホームページの多言語化の検証から
瀬尾匡輝（茨城大学）
- 10:20—10:50 留学生は「道具」ではない
—地域活性化やグローバル化における留学生の主体性の構築—
魏小花（東北大学大学院教育学研究科）
- 10:55—11:25 大学生のグローバル志向の現代的構造
——ナショナリズム・ネオリベリズムとの融合可能性
小林元気（鹿児島大学）
- 11:30—12:00 移動がもたらす名前とアイデンティティをめぐる葛藤と受容の変遷
—日本育ちの日台「ハーフ」の事例研究—
服部美貴（台湾大学）

共同発表 6月21日(土)

司会：堀江未来(立命館大学)

塚田英恵(一橋大学 国際教育交流センター)

会場：教育学部棟 158

14:00—15:00 国際教育交流における、民族・人種差別問題にかかわる取り組み

塚田英恵(一橋大学 国際教育交流センター)

渡部由紀(東北大学)

15:05—16:05 多文化間共修における学びとその促進要因とは

：多様な文化的背景をもつ大学生と小学生の学び合い事例から

堀江未来(立命館大学)

LIANG XIAOXIAN(立命館大学 OIC 総合研究機構)

東侑希(立命館大学国際関係学研究科/American University School of International Service)

共同発表 6月21日(土)

司会：岸磨貴子(明治大学)

赤木綾香(島根大学教職大学院)

会場：小島ホール 1 階・第 1 セミナー室

14:00—15:00 地方の公立専門高校生徒は留学生との交流活動で何を学ぶのか

—生徒の振り返りをもとにした異文化受容態度変容分析

赤木綾香(島根大学教職大学院)

大谷みどり(島根大学)

15:05—16:05 異文化間教育学を ABR する—アートを通じた探究が生み出す新たな問いと学び—

岸磨貴子(明治大学)

佐藤郡衛(国際交流基金日本語国際センター)

渋谷真樹(日本赤十字看護大学)

古屋憲章(山梨学院大学)

吉田千春(中央大学)

共同発表 6月21日(土)

司会：中山亜紀子（広島大学大学院）

三ツ木由佳（立命館小学校）

会場：小島ホール1階・第2セミナー室

14:00—15:00 初等中等教育における国際教育実践の事例研究

：海外研修プログラムを通じた自己成長力を育む「振り返り」に焦点を当てて

三ツ木由佳（立命館小学校）

松本哲彦（学校法人東明館学園 東明館中学校・高等学校）

中西美佐（立命館中学校・高等学校）

15:05—16:05 学位取得を目的とした留学生と日本社会

鄭若男（広島大学）

中山亜紀子（広島大学大学院）

共同発表 6月21日(土)

司会：見世千賀子（東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構）

会場：小島ホール2階・第3セミナー室

14:00—15:00 日本人学校の教師による複言語主義をめぐる認識と実践の変容

—メキシコ・ドイツの事例—

見世千賀子（東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構）

小林聡子（千葉大学）

菅原雅枝（愛知教育大学）

加藤香代（川崎市立小学校）

高橋奈々（東京学芸大学大学院教育学研究科）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

共同発表 6月21日(土)

司会: Sikarin Kosanwattana (The University of Phayao, Thailand)

会場: 小島ホール2階・第3セミナー室

15:05—16:05 Developing a Program for Fostering Teachers' Knowledge on Researching
: Chiang Rai Provincial Vocational Education Office

Sikarin Kosanwattana (The University of Phayao, Thailand)

Piyamas Kaewinta (The University of Phayao, Thailand)

Supaporn Thamasorn (The University of Phayao, Thailand)

Weawwalee Putthima (The University of Phayao, Thailand)

※本発表は、オンラインにて実施

共同発表 6月22日(日)

司会: Lidiya Okada (JSPS Postdoctoral Fellow for Research)

会場: 小島ホール1階・第1セミナー室

9:30—10:30 A linguomusicological approach to education in a multicultural environment.
The LMOW model and the Japanese data

Lidiya Okada (JSPS Postdoctoral Fellow for Research)

Ura Satomi (Meisei University)

共同発表 6月22日(日)

司会: 齋藤真宏 (旭川市立大学)

山田亜紀 (玉川大学)

会場: 小島ホール1階・第2セミナー室

10:00—11:00 デジタル時代における異文化間教育の再構築
-日台デジタルネイティブ世代への聞き取り調査を通して-

山田亜紀 (玉川大学)

孫世偉 (桜美林大学)

11:05—12:05 教師・教師教育者のセルフスタディと日本語教師教育者の言語ヒストリーの出会い
-異分野連携からの学び-

齋藤真宏 (旭川市立大学)

上田和子 (武庫川女子大学)

小林浩明 (北九州市立大学国際教育交流センター)

共同発表 6月22日（日）

司会：杉原由美（慶應義塾大学）
 田中茉莉子（東京大学大学院教育学研究科）
 会場：小島ホール2階・第3セミナー室

10:00—11:00 探究活動を通じた多文化共生保育における実践者の意識
 —保育者、アトリエリスタの語りに着目して—

田中茉莉子（東京大学大学院教育学研究科）
 倪琳林（東京大学大学院教育学研究科）
 小沼聡恵（東京大学大学院教育学研究科）

11:05—12:05 異文化間のコミュニケーションと教育におけるクリティカルアプローチの展開
 —インターカルチュラルリティ・クリティカルリティ・リフレキシビリティを中心に

杉原由美（慶應義塾大学）
 オーリ リチャ（武蔵野大学）

共同発表 6月22日（日）

司会：渋谷恵（明治学院大学心理学部）
 平田亜紀（愛知医科大学 医学部 外国語）
 会場：小島ホール2階・コンファレンスルーム

10:00—11:00 バーチャル空間での異文化コミュニケーション教育
 :医学部生と台湾の日本語・日本文化学科生の教育交流活動事例から

平田亜紀（愛知医科大学 医学部 外国語）
 佐藤良子（東海大学）

11:05—12:05 多文化社会の教育研究・実践における「異文化間アプローチ」の可能性と課題

渋谷恵（明治学院大学心理学部）
 見世千賀子（東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構）
 中山あおい（大阪教育大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

ケース／パネル発表 6月21日（土）

会場：教育学部棟 158

16:10—17:40 多文化社会における「居場所」—多様性と意義

共同発表者, 司会者 鈴木一代（埼玉純真短期大学）
共同発表者 吹原豊（福岡女子大学）
共同発表者, 司会者 有川友子（大阪大学国際教育交流センター）
ディスカッサント 手塚千鶴子（元慶應義塾大学）
ディスカッサント 稲田素子（立教大学文学部教育学科兼任講師）

ケース／パネル発表 6月21日（土）

会場：小島ホール第1セミナー室

16:10—17:40 新たな日本語教員養成制度と外国人児童生徒等の教育を担う指導者の養成

共同発表者, 司会者 浜田麻里（京都教育大学）
共同発表者 齋藤ひろみ
（東京学芸大学教育学部人文社会科学系日本語日本文学研究講座日本語教育分野）
共同発表者 中川祐治（大正大学）
ディスカッサント 金田智子（学習院大学文学部日本語日本文学科）

ケース／パネル発表 6月21日（土）

会場：小島ホール第2セミナー室

16:10—17:40 日本の大学教育における異文化間コンピテンシー開発と
リーダーシップ育成の実際と課題

共同発表者, 司会者 米澤由香子（東北大学）
共同発表者 平井達也（明治大学 国際日本学部）
ディスカッサント 秋庭裕子（東京学芸大学）

ケース／パネル発表 6月21日（土）

会場：小島ホール第3セミナー室

16:10—17:40 外国にルーツのある子どもの社会的包摂はどこまで実現しているのか
—2023年度大阪市学習・生活調査の結果から—

共同発表者, 司会者

高橋登（大阪教育大学教育学部）

共同発表者

李址遠（お茶の水女子大学）

共同発表者

米澤千昌（大阪教育大学教育学部）

共同発表者

王林鋒（大阪教育大学）

ディスカッサント 池上摩希子（早稲田大学大学院日本語教育研究科）

ケース／パネル発表 6月22日（日）

会場：小島ホール第1セミナー室

10:35—12:05 日本の大学国際化における教員の学び
：留学とキャリアに関するアドバイジングの視点から

共同発表者, 司会者

村山かなえ（神戸大学）

共同発表者

堀江未来（立命館大学）

共同発表者

坂井伸彰（長浜バイオ大学）

ディスカッサント 山口洋典（立命館大学共通教育推進機構）

ポスター発表

6月21日：13:00-16:30

6月22日：8:45-13:00

会場：福武ホール地下2階スタジオ

ポスターセッションのご発表者は2日目8:45～9:45に在籍してご説明をお願いします。1日目13:00～16:30、2日目9:45-13:00のポスターセッションは任意の在籍となります。

1. 日本語・英語で話す仕掛けづくり—高専におけるグローバル人材育成を目指して—

草刈明美（八戸工業高等専門学校）

2 台湾の日本語専攻生のメタ認知能力の育成

黄英哲（（台湾）台中科技大学）

3 看護領域の職場における日本人職員の文化的ダイバーシティ風土の認識と価値観との関連

加賀美常美代（お茶の水女子大学）

小松翠（東京科学大学）

文吉英（明治学院大学）

守谷智美（岡山大学）

4 日本人大学生における留学生との交流認識に関する探索的検討

田中共子（岡山大学社会文化科学研究科）

5 日本語教員養成課程における学びは修了後どのように生かされているか

：ある地方国立大学の卒業生達への聞き取りから

瀬尾悠希子（茨城大学）

6 大学進学を経た南米諸国ルーツの若者が自分らしい生き方を確立していく過程

：大学進学以降に注目して

田口香奈恵（東海大学）

山森理恵（明治大学）

7 異文化間能力の統合的研究：理論-事例の対話と分野横断的な視野の試み

中尾元（追手門学院大学）

8 国際寮の課題解決に向けたワークブックの開発と活用

吉田千春（中央大学）

カ丸晃也（立命館アジア太平洋大学）

9 共創空間開発技法によるアンラーニング：ゼミ活動の事例

山下美樹（麗澤大学）

10 日本語教育をめぐる地域の課題解決に向けた試み

—異文化間グループキャリアカウンセリングを通して—

山田香織（広島大学大学院人間社会科学研究科）

11 技能実習生と日本人社員のコミュニケーション研修の実践と課題 —建設会社での取り組みから—

嶋ちはる（国際教養大学）

島直子（国際教養大学専門職大学院 日本語教育実践領域）

12 難民認定申請者の学びを継続するために — 日本語教室の取り組みと課題—

鈴木美穂（目白大学）

當銘美菜（目白大学）

13 海外で育つ日本ルーツの子どもたちの学び—補習授業校 OB0G インタビューを通して

岡村郁子（東京都立大学）

大橋由貴（ダラス補習授業校）

藻谷ようこ（ポート・オブ・サクラメント補習授業校）

14 介護技能実習生のための方言研修プログラム開発にむけた初期的試み

中野祥子（山口大学留学生センター）

15 ある会社員が退職後に地域日本語教育の発展に寄与するに至る経緯

古田梨乃（新潟大学）

廣川智（新潟大学）

16 教育旅行と異文化理解—戦前期ハワイ日系二世の訪日旅行を事例に

山本桂（神奈川工科大学）

17CEFR-CV「仲介活動」を意識した国際共修授業の試み—学生のリフレクションから見た課題—

阿部祐子（国際教養大学）

18 合宿型国際共創プログラムが中高生に与える影響

—ルーブリックによる自己評価とアンケート調査をもとに—

新谷知佳（大阪大学人文学研究科）

中尾菜穂（なし）

パルマヒルフロリンダ アンパロ（東京外国語大学）

19 ベトナム人女子児童を受け入れた担任の在籍学級での取り組みと苦悩

—S市の小学校での事例から—

市川成章（静岡市立大里西小学校）

20 外国につながる高校生と「つながり」を編みなおす—特別枠校での協働実践の試み—

澁谷優子（筑波大学大学院）

島沙也加（筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群（博士前期課程）教育学学位プログラム国際教育）

杉山りん（筑波大学教育学学位プログラム）

王梓昂（筑波大学大学院）

徳永智子（筑波大学）

21 日本にルーツをもつバイカルチュラル大学生のライフストーリーに見られる共通テーマの分析

呉禧受（Michigan State University）

22 中国人留学生はなぜ日本の大学院に留学するのか—家族の資本と留学への意味づけに注目して—

劉逸（東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻比較教育社会学コース）

23 高専の留学生に対するホリスティックな日本語教育の取り組み—JLPT 中心主義を超えて—

矢崎満夫（阿南工業高等専門学校）

24 中国人日本語学習者の多人数会話の参加における困難点

—インタビュー調査とアンケート調査をもとに—

孫浩淞（東京外国語大学大学院総合国際学研究科国際日本コース国際日本専攻）

25 「Intercultural Safety」に向けて—異文化間教育における心理的安全性の意義と可能性—

LIANG XIAOXIAN（立命館大学 OIC 総合研究機構）

東侑希（立命館大学国際関係学研究科/American University School of International Service）

26 こども国際 PBL 予備調査に見られるコミュニケーション・ストラテジー

—発話行為に着目して—

大神智春（九州大学留学生センター）

27 日本人大学生の留学意欲及びその阻害要因に関する一考察

櫻井薫子（お茶の水女子大学）

PINILLOS MATSUDADEREK KENJI（明治大学国際日本学部）

28 夜間中学における日本語教育の再検討—オンライン併用プログラム試案

高橋朋子（近畿大学）

29 教職大学院の必修科目における「特権」に気づくための授業実践

米本和弘（東京学芸大学）

徳永生（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）

30 武術・芸術・学術の融合による異文化適応教育の実践研究

—武術の身体接触、芸術の対話型鑑賞、異文化適応の理論と—

荻野 NAO 之（立命館大学文学部／スタンフォード大学レクチャラー）

31 映画を通じた「他者への共感」—高校生はクルド人の生きる世界をどう受け止めたか—

保坂敏子（日本大学通信教育部通信教育研究所）

柳谷孝一（神奈川県立上溝南高等学校）

32 母国で就職した日本の建設系大学院修了者の変化過程

—英語プログラム出身者の追跡調査に基づいて—

柴山俊也（千葉大学大学院）

33 日本の大学に留学した若者の幸福感に関する一考察

小松由美（東京外国語大学大学院国際日本学研究院）

34 日本・ロシア・中国の小学校国語教科書に描かれた対処行動

—子どもに提示された「異文化」への対処方略—

塘利枝子（同志社女子大学）

35 ジェンダー平等の教育—平等と公正の観点から—

久保田真弓（関西大学）

36 文化的言語的マイノリティの子どもたちの心身の健康に関する関係者の認識

～質問紙調査の結果から～

齋藤ひろみ（東京学芸大学教育学部人文社会科学系日本語日本文学研究講座日本語教育分野）

原瑞穂（東京学芸大学）

見世千賀子（東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構）

小西円（東京学芸大学）

河野俊之（横浜国立大学・教育学部）

谷啓子（東京学芸大学 人文社会科学系 日本語・日本文学研究講座 日本語教育学分野）

市瀬智紀（宮城教育大学）

37 外国人学校見学による異文化理解—埼玉朝鮮初中級学校見学から—

斎藤敬太（跡見学園女子大学）

38 多文化共生の教育における異文化間交流学習に関する研究動向

海道朋美（関西大学大学院 総合情報学研究科）

39 『異文化間教育事典』でつくる・ひらく・うごく—高等教育における異文化間教育学の活用—

古屋憲章（帝京大学日本語教育センター）

渋谷真樹（日本赤十字看護大学）

岸磨貴子（明治大学）

大船ちさと（国際交流基金日本語国際センター）

小林聡子（千葉大学）

平井達也（明治大学 国際日本学部）

40 Older American Volunteers Teaching English Conversation Online to Japanese Schoolchildren

: A pilot Study 日本の中学生を対象にした米国在住ネイティブスピーカーによるオンライン英会話

レッスン：パイロットプログラムとその効用

MASAMI TAKAHASHI (Northeastern Illinois Univ)